

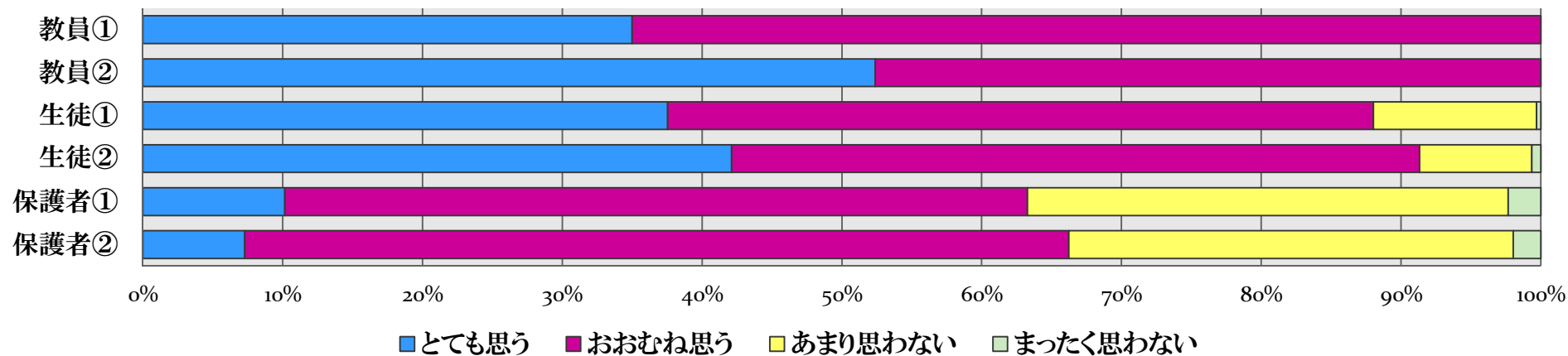
■ 学校課題を採るための学校評価の工夫

- 生徒, 保護者, 教職員の三者が同じ観点で活動を評価する。→質問の表現は変えるが, 内容は変えない
- 質問項目の絞り込みをする。→21項目
- 三者の評価を比較して表示する。

教職員:生徒に学習予定, 本時のめあてを知らせ, 計画にそって実践していますか?

生徒:今日の授業のめあてや課題が分かり, 授業に熱心に取り組んでいると思いますか?

保護者:子どもは, 現在学習している内容や学習の取組の様子を知っている方だと思いますか?



(1) 重点目標(課題の絞り込み)

- わかる授業の展開
 - ・授業のユニバーサルデザイン化
- あいさつのできる生徒
 - ・保護者, 地域から認められるあいさつ
- 生徒指導の充実
 - ・見える生徒指導
- 情報公開
 - ・学校の教育活動の発信

全職員で目標の共有化

校務分掌のプロジェクトによる改善への取組

(2) 管理職ベースで進める 業務改善の取組

○ 教職員が業務改善を実感できる取組をピックアップし進める。

- 事務処理の効率化
 - ・文書のデータベース保存による検索時間の短縮
 - ・ペーパーレスの職員会議による印刷時間の削減
- 職員会議の時間短縮
 - ・企画会の充実と学年会による伝達
- 情報の共有化
 - ・報－連－相－確の徹底による連絡体制の整備
- 各プロジェクトの調整

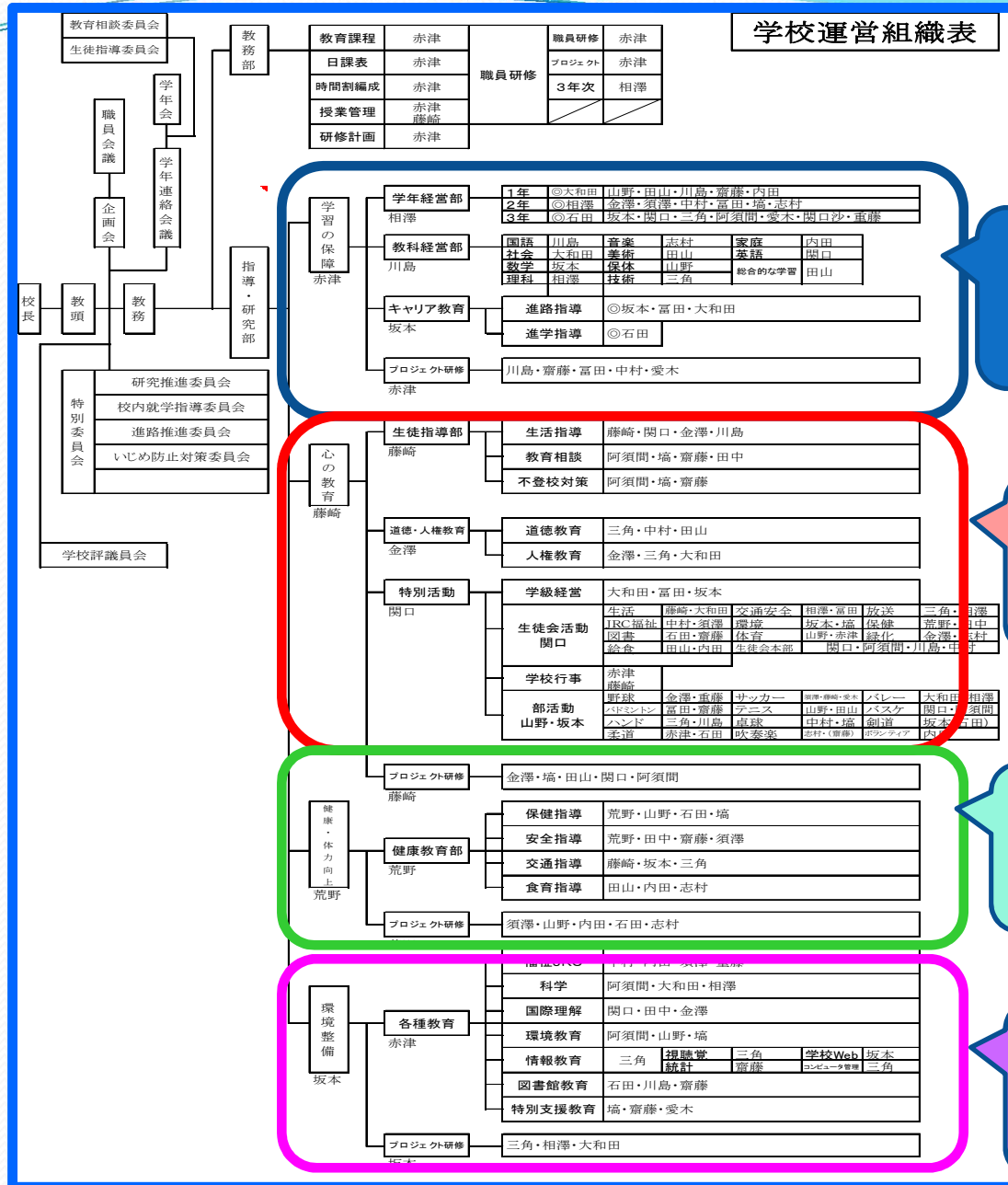
3 各プロジェクトの活動

- わかる授業の展開(学習の保障プロジェクト)
- 生徒指導の充実(心の教育プロジェクト)
- あいさつのできる生徒(健康体力向上プロジェクト)
- 情報公開(環境整備プロジェクト)

教務部が達成状況を把握

- 企画会での進行状況確認(月1回)
- 学年連絡会での連絡調整(毎週実施)
- プロジェクト研修の実施

(1) 校務分掌を4つのプロジェクトで分担



学習の保障
プロジェクト

心の教育
プロジェクト

健康・体育
プロジェクト

環境整備
プロジェクト

■ ボトムアップによる学校運営参画意識の高揚

○教職員の意見やアイデアを学校運営に積極的に生かす

□ 学習の保障プロジェクト

- ・授業力向上のため校内授業研究を増やす。(年5回→年10回へ)

□ 心の教育プロジェクト

- ・生徒指導上のきまりを策定し生徒および保護者に提示する。

○ 空き時間を利用した教室の見回り

H25年度 2学期以降毎日実施→H26年度 必要なし

○ 生徒が落ち着いていると評価した職員→7割 (1学期比)

□ 健康体力向上プロジェクト

- ・あいさつがよくなる生徒にする。

- ・生徒はよくあいさつをしていますか。

学校評価アンケートより

対象	平成25年度	平成26年度
保護者	58%	69%
教職員	7%	100%

□ 環境整備プロジェクト

- ・HPの更新を担当者から当番制にする。(ほぼ毎日更新)

取組の成果を実感



達成感・充実感

(2) 効率化の取組

■ 文書のデータ保存

- 出張文書や各文書を共有フォルダに保管することで検索や閲覧が便利になっている。

■ ペーパーレスによる職員会議

- 教務主任の負担軽減が図られている。
- 企画担当者の文書印刷の時間軽減になっている。
- 起案書等を探す時間の短縮に役立っている。

■ 各プロジェクトの取組を調整

- プロジェクトの取り組みを調整することで、効率的な活動となっている。

4 成果①

- 学校評価を学校経営に反映
- **ボトムアップによる学校運営参画意識の高揚**
- 授業のユニバーサルデザイン化の定着
- 校務分掌の活性化
- 教務主任の資料準備
- ペーパーレスにより大幅な時間短縮
- 保護者の情報公開に関する評価のアップ

年度	とてもよい	とてもよい+よい
H25年度	12%	79%
H26年度	25%	85%

学校評価アンケートより

4 成果②

■ 職員会議の時間短縮

- ・企画会の計画的な実施

→ 学年会による伝達

→ 職員会議は確認の場

※ 1時間以内での職員会議という目標を達成

■ 学年会の連絡調整の機能向上

- ・学年会の連絡調整の場としての機能向上により、教職員の情報の共有化と意見の取り入れが可能になっている。

5 今後の取組

- 校務分掌のユニバーサルデザイン化
 - ・担当者が変わってもスムーズな運営ができるように、わかりやすいデータ整理と行事など運営方法のマニュアル作成
- 職員の意思を反映させる場の設定
- 地域の教育力を活用した学校経営
 - ・学校安全面での協力要請

中間成果報告書

団体名： ひがし

<研究課題>

- A 学校評価の充実・強化に向けた実践研究
 - 子どもと向き合う時間を確保するための業務改善
 - 教師の多忙感の解消と生き生きと働ける環境づくり

取組のプロセスが分かる報告書

1 事業の実施状況（平成26年11月30日現在）

（1）事業概要

<現状>

本校はこれまでに業務の効率化として、校務の電子化（通信費削減、校中LANを活用した授業共有化）、内職員会議の時間短縮、定時退勤日の個別設定等に取り組んできたが、業務に多忙感を感じ、余裕をもって子どもと向き合えない現状に陥り、生徒指導の充実を図るためにも、学校としての対策、子どもと向き合う時間を確保し、教職員の多忙感を解消することで、組織目標の達成を図る。

資料へのリンク
=情報の共有化

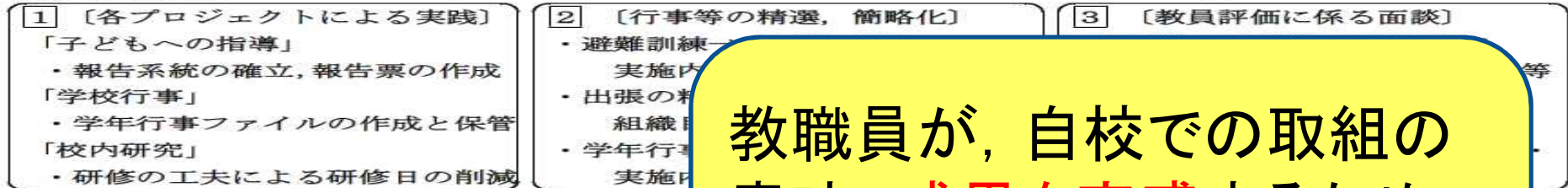
<ねらい>

- 業務改善により子どもと向き合う時間を確保し教職員の多忙感を解消することで、組織目標の達成を図る。

<取組の概要>

- 1 3つのプロジェクトチームで具体的な業務改善策を検討し、実践することにより多忙感の解消を図る。
- 2 子どもと関わる時間を増やすため、行事等の精選や簡略化を図る。
- 3 教員評価の面談・授業参観及び学校評価により、教職員の勤務意欲の向上を図る。

（2）実施状況



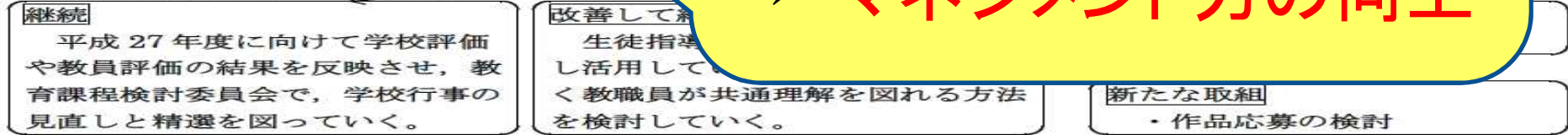
教職員が、自校での取組の意味、成果を実感するための報告書
→ マネジメント力の向上

2 今までの取組

による効果



3 今後の取組予定



IV 今後の展望

■ モデル校事業からモデル地区事業へ

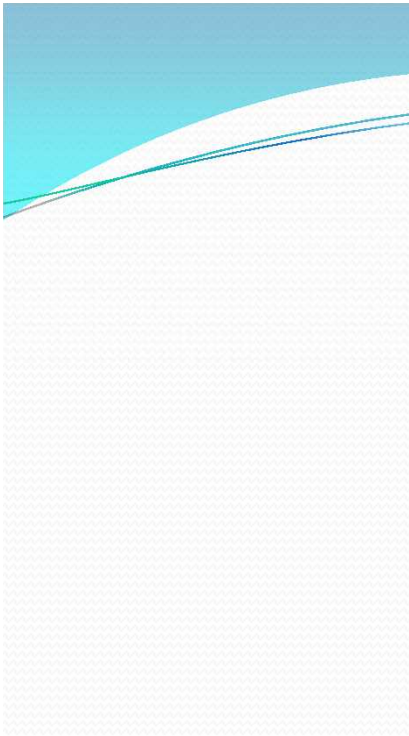
①学校事務の共同実施による学校運営支援の充実

②小中一貫・連携教育におけるマネジメント力の強化

・実効性のある学校評価

・地域人材活用, コミュニティ・スクールの実践研究

「チーム学校」として力を発揮するマネジメント



◇ ご清聴
ありがとうございました。